

# まんさく

第296号

発行  
特別養護老人ホーム光寿苑  
まんさく編集委員会  
和賀郡西和賀町湯本30-76-1  
TEL 0197-84-2526  
koujhu@fancy.ocn.ne.jp  
題字 元理事長 太田 祖 電



毎日が特別な日なのだと実感させられた2024年はじまりのとき…

## 296号もくじ

### ☆2～3頁★

\* 上半期検証と下半期目標  
(医務、栄養士・調理)

### ☆4頁★

\* 冬の「防災部分訓練」実施！ \* 職員募集中♪  
\* 手洗いチェッカーにて自らの手洗いを点検中！

### ☆5頁★

\* 想…災害を捉える

### ☆6頁★

\* 地域密着型事業紹介  
\* 寄附・寄贈・訪問等紹介

### ☆7頁★

\* 元気です！家族会♪  
\* 光寿苑のかお(入居者紹介)

### ☆8頁★

\* 「光寿苑の日々」(4コマ漫画) \* 「自然法師」(お寺さんのお話) \* 「おわりに」

# 令和5年度法人キーワードは『活かす』～変更箇所：「丸ゴシック体」～

【生活】「②医務部門」 ☆佐藤真理子☆

法人キーワード		令和5年度共通のキーワードは『活かす』	
令和5年度上半期のイメージ	テーマ	家族・職員から得た情報をお年寄りのためにタイムリーに活かしていく。	
	理想像	目標 ①	目標 ②
	具体的な取組 （いつ、何を、どのように）	<p>★職員で得た情報を共有し合い、活用した結果を評価し、次に繋げていく事ができる。</p> <p>①ユニット内で得た情報を医務内で共有し、看護の視点を持ちながらお互いの理解を深めていく。</p>	<p>★積極的に家族と関わり、得た情報を活かし、結果を家族と共有する。</p> <p>①面会の場を積極的に利用し、様子を伝える。 ②面会の少ない家族には、電話で積極的に様子を伝える。</p>



令和5年度上半期検証【テーマ】	<p>*下記『上半期検証』の内容のように、概ねテーマに添う事ができた。継続してテーマとしてあげたいと思う。</p>
令和5年度上半期検証【各目標】	<p><b>目標①</b> ※お年寄りの生活状況の変化、身体能力の低下等についてユニットから得た情報を医務内でも共有していたが、看取りの段階まで掘り下げて活かしていく事が遅れてしまった。</p> <p><b>目標②</b> ※面会や受診の場を活用し、ご家族と接する機会を積極的に行った。また、配置医の慎先生から家族への検査結果の説明・面談の場に可能であればぜひ来てもらいたいと思い、調整役に徹した。面談を通して、ご家族の思い、配置医の考え、それぞれの橋渡しをする事ができた。</p> <p><b>全体を通して</b> ※全体的に、昨年度よりはご家族との関わりを多く持つ事ができ、お年寄りの情報の共有、また、ご家族の思いを受け止める事ができたのではないかとと思う。</p>



令和5年度下半期のイメージ	テーマ	家族・職員から得た情報をお年寄りのためにタイムリーに活かしていく。	
	理想像	目標 ①	目標 ②
	具体的な取組 （いつ、何を、どのように）	<p>★上半期の反省を活かして、お年寄りの発した一言、その思いに気づく事ができるよう努めていく。</p> <p>①お年寄りの定期検査の結果等をユニットに伝え、身体的な変化等の情報交換を持ち、共有に努め、事故防止とケアの向上に活かしていく。</p>	<p>★今年度の目標である家族との関わりを持つ事は、まだ実施できていない。ご家族と計画を立て、実施に向ける。</p> <p>①ご家族とのコンタクトをとる前に、お年寄りから希望や想いを聴き、ご家族に伝えていく。 また、伝えていく事により、本人・ご家族から得た事を今後の関わりに活かしていく。</p>

# 上半期を振り返って、下半期の目標再設定です

【生活】「③栄養士・調理部門」 ☆高橋奈々子☆

法人キーワード		令和5年度共通のキーワードは『活かす』	
令和5年度上半期のイメージ	テーマ	明日の活力になる様な美味しい食事を作る。	
	理想上半期	目標 ①	目標 ②
		★旬の食材を使用した新しいメニューを1品でも多く取り入れる。	★美味しく、安心・安全な食事づくりをする。
具体的な取組み (いつ、何を、どのように)	①旬の時期のおいしい食材を使用した新しいメニューを献立に取り入れる。 ②旬の食材や新しいメニューを献立に活かせる様に調理内で意見交換をする。		
		①全ての作業は『最終的にはお年寄りの元へ行く』ことを忘れず、衛生面等も含め、『あたり前のことをあたり前に』作業する。 ②彩り・味付けを工夫して、普通食からソフト食まで美味しく仕上がり、お年寄りが安心して食べて頂けるような食事づくりをする。 ③看取り期のお年寄りに、食べたい物を少しでも食べて頂けるよう皆で協力する。	



令和5年度上半期検証【テーマ】	※継続してテーマとしてあげたい。
令和5年度上半期検証【各目標】	<b>目標①</b> ※旬の食材をできる限り取り入れた食事は提供できたが、新しいメニューは出す事ができなかった。
	<b>目標②</b> ※食べやすく、美味しい食事を提供できたと思う。 ※お年寄りからも直接、「美味しい」という声を聞く事ができた。



テーマ		明日の活力になる様な美味しい食事を作る。	
令和5年度下半期のイメージ	理想下半期	目標 ①	目標 ②
		★旬の食材を使用した新しいメニューを1品でも多く取り入れる。	★美味しく、安心・安全な食事づくりをする。
	具体的な取組み (いつ、何を、どのように)	①寒くなるので、体が温まるような食材を使った新しいメニューを取り入れる。	
		①全ての作業は『最終的にはお年寄りの元へ行く』ことを忘れず、衛生面等も含め、『あたり前のことをあたり前に』作業する。 ②彩り・味付けを工夫して、普通食からソフト食まで美味しく仕上がり、お年寄りが安心して食べて頂けるような食事づくりをする。 ③看取り期のお年寄りに、食べたい物を少しでも食べて頂けるよう皆で協力する。	

# 冬の「防災部分訓練」実施！

「避難訓練」 12月18日実施

「通報・消火訓練」 12月20日実施



## 手洗いチェッカーにて 自らの手洗いを点検中

〔12月18日～1月31日〕

すべての衛生管理  
は手洗いに始まり手  
洗いに終わる！  
自分の手洗いを定  
期的に見直す研修で  
ございます♪



## 職員募集中♪

### 管理栄養士・調理員

調理員は有資格者も無い方も歓迎！

### 生活相談員・介護支援専門員

社会福祉士・社会福祉主事、介護支援専門員

### 介護職員・事務職員

資格は問わず！経験のある方、大歓迎！



# 想

## 災害を捉える 宮城県から発信します④

### 『心よりお見舞い申し上げます』白木澤琴氏



宮城県の僧侶・白木澤琴さんより4回目のご執筆です。今回は、元旦に起きた「能登半島地震」について。私自身の実相を言い当てられた文章でした。

北陸地方の大地震、津波、火災において被災された皆様、また、心を痛めておられる皆様におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。

反射的に涙が出る。止まらない。

鼓動が速まる。地震なんて、何  
度も経験しているから平気だ、と、  
過信し、自分自身でも忘れかけた  
感覚が強烈に襲う。

「経験が仇となり、震災の感  
覚、恐怖、恐怖がよりリアルに蘇  
る。」

元旦、石川県を中心に凄まじい  
地震、津波、火災が発生。日本海  
側全域に津波の危険が襲い、何度  
も何度も緊急地震速報が鳴り響く。

何人何人も、知っている友人・知  
人の顔、土地の名前が浮かぶ。

「石川県」「富山県」「新潟県」  
「氷見」「入善」「高岡」「金  
沢」「七尾」「小松」

まさか！大津波警報が出る。テ  
レビの前に座り込み、喜怒哀楽関  
係なく、反射的に涙があふれ落ち  
る。拭いても拭いても止まってく  
れない。

「そもそも津波がくるとこだし迷  
いでいい」  
金沢に住む友人に連絡する。必死

の思いで呼びかけた。

真宗王国とも呼ばれる北陸地域。

石川、富山、新潟も浄土真宗寺院  
の過密地域であり、多くの方が真  
宗門徒である。僧侶でもある友人  
は、本堂の「本尊（阿弥陀如来）  
を持つて避難したという。」

北陸は、ご本尊を中心にした生活が

営まれる信仰の篤い地域とも言わ  
れているが、本場に危機迫る状況  
の中、用意が間に合ったならばい  
いのだが、万が一、ご本尊や法名  
軸、過去帳、位牌などを忘れた！  
と気づいても、絶対戻らないで！  
美談はいらない。命失ってしまった  
ては何もならないから。東日本  
大震災で、どれだけ多くの人たち  
が忘れ物のために引き返し、津波  
によって命を落としたか。だめ  
ら、お願いです、絶対に戻らない  
で欲しいのです。

玉蓮寺のご門徒の中で、登米、  
栗原、涌谷地域の一部の方々は、  
富山県入善などから昭和初期に入

植された世帯が多い。奇しくも、

お寺の新年の集まりである修正会  
で、この地域の方々が多くご参詣  
された。親戚のご自宅が倒壊した  
との話をお聞きした。何件も親戚  
に電話したや、驚がらないという  
方もいた。

心を痛める。つらい。思い  
出す。

しかし、次々に舞い込むニュース  
スにも、次第に追いつけなくなる。  
ここには、何も無かったかのよう  
に「日常」があるだけだ。そして、  
思う。わずかに心がささやく。  
「自分のところじゃなくてよめ。  
た。」

と。災害と同じくらい恐ろしい心  
を持ちながら生きている私を知ら  
される。卑怯な心を抱きつつ。  
でも、そんなでも思う。一刻も早  
く、被害に遭われた皆様の救出、  
また、復興が成し遂げられますこ  
とを。かつて、私にしていただ  
いたことは何だったか。今は自問  
し、できない私が、願っている。

白木澤琴

続

今月の登録者の方々  
15名様です♪

小規模多機能ホーム「ひなたぼっこ」  
住宅型有料老人ホーム「湖畔の宿」

小雪の迎春… 皆さん元気♪「ひなたぼっこの日常」



2023/12/12 09:46



2023/12/13 11:28



2023/12/17 10:02



2023/12/28 11:00

【左上】上野々サロン「クリスマス会」

【右上】仲良しさんのお昼寝タイム♪

【左下】お茶会「キャンドル作り」

【右下】年の瀬のもちつき

おかげさまでした

寄贈

- ☆ 梨子下 深幸 様 [上野々]
- ☆ 高橋 レイ子 様 [上野々]
- ☆ 高橋 ちづ子 様 [下 前]
- ☆ 高橋 康文 様 [田 代]
- ☆ 佐々木 正 様 [北上市]
- ☆ 照井 和江 様 [北上市]
- ☆ 三上 正 様 [滝沢市]
- ☆ 中田 幸子 様 [東京都]
- ☆ 宇留野 説子 様 [東京都]
- ☆ 山口 要子 様 [奈良県]

寄附

- ★ 柏崎 良雄 様 [湯 田]
- ※ 先月号では、「訪問」で紹介しましたが、正しくは「寄附」の扱いでした。大変失礼致しました。

面会・外出 [12月1日~31日]

- 【対面面会】 延べ69名 (対象入居者24名)
- 【オンライン】 1名

光寿会へのご支援

★ = 光寿苑  
☆ = ひなたぼっこ

# 第111回



家族会地域役員  
佐々木忠雄氏

111回目は、家族会役員の佐々木忠雄さんより一筆いただきました(^\_^) それでは、どうぞ~♪

# 元気です！家族会♪

## 【サトルの①、突然の出来事】

令和3年11月18日20時過ぎ、仕事から帰ると娘が、「何かお婆ちゃんおかしい。ご飯食べないし、それに床に寝ているい。」  
 と言うので、慌てて部屋に行ってみる。部屋に行くといくらかの状態が、声を掛けるが反応があまりない。  
 「どうした？大丈夫か？」と声を掛けるが、私の顔を見て涙をポロリと流すと、無表情になる。大きな声で話しかけても全然反応がなくなる。後から妻も来て、「救急車呼ぶ？」と聞かされたので、「まあ頼む！」と応じた。仕事では、このような場面で活動してきたの

に、家族がこのような事態になるに本当に慌てる。(しばらくするとサイレンが聞こえて救急車が到着。救急隊を見て少し安心する自分かいた。救急車には妻と娘が乗り、私は保険証を採す。教えてもらっていたのに何故か見つからず焦る。最後には、最近まで母と歩いていた叔母から聞いてやっと探し出す。それを持って救急車を追いかけた。母の病気は国指定の難病で、隔々搬送してもらった。C病院の当直医が専門医だった。おかげで治療が早く、命は助かった。しかし、治療にステロイド剤を使うため副作用で身体にむくみが出る。また、脳が炎症を起したことによる認知機能障害が出てしまう。新たな人生が始まった。

（続）

# 光寿苑のかお

## 【入居者紹介】



田村シゲさん  
人を労う言葉もステキ♡

【担当:柴田恵美、三浦とし子】

歌や踊り、食べることも大好き♡ 沢内甚句を歌ったり、毎日の食事の献立を楽しみにしたり、職員と笑い話したり、外の景色を眺める時間や好きなシゲさんです。去年、白内障の手術をがんばってからは、色んな楽しみが増えましたね。  
 昔は、子人のお子様方を育てるために、農家をやりながら地区の人たちと工場・土建の仕事までがんばりながら子育てをされていたそうです。  
 (恵美)



盆踊り等、お祭りの時には、歌姫・シゲさんの出番です。♡

光寿会の日々 296号



# ブツダのように私は死んだ。

## 《坂本冬美・唄》

坂本冬美は佳いですね。もちろん、彼女の「唄」がです。その坂本冬美が、3年前の紅白で歌った唄。詞は八千ヤメチャダが、この唄は時代を映していると思えました。

第95回 丸田善明  
自然法爾 (じねんほうに)

この裏側を流れているのは、「ブツダのよう」に私も生きたかったという、人生に対する切実な愛です。けれども、気がついたら土の中だった。なぜ、こんな人生しか、生きられなかったのか。

人生に対する切実な愛。ブツダへの、でも、だました男々に対するものでもない。土の中に自分を見つけて、初めて悔恨する私。

それは、自分に対する深い愛情なのでしよう。昨年、ニュースを通して、土の中。で泣く多くの若い男・女を見ました。若い人が悲しむ姿を見たくない。82歳の爺の思いです。

ウクライナの独立と平和を祈り続けて2年が過ぎます。戦争で多くの人たちが死んでいく。ここでの《祈り》は明白です。でも、日本の若い人たちの死には《祈り》が見えない。そこへ私が見えてくるのは《虚しさ》だけ。

私たちは、人生に切実な愛を持っていく。愛は《祈り》を生む。その愛を見つめて生きよう。謹賀新年。

イラスト：1000

仲のよかった姉妹。光寿苑に入居してからもお互いを案じてきた。そんな中、妹が厳しい状態になる。それを聞いた姉が会いにいったこのシーン。返答はできずとも、姉の声に、そして思い出話に、きっと妹の心身は包み込まれていたと振り返る。今季

おわりに

今年もおかげさまでした。来

年もよい年をお迎えください。毎年、光寿苑のお年寄りに、職員に、友人に、地域の方々に、そして家族に決まり文句のように言いつけてきた言葉。この言葉の重みを、元旦以降ずつと突きつけられる。冒頭のような言葉を、能登の皆様も同じように交わし合っている。たのではないかと。それが一年の始まりの日に、夢であったもののようにならぬように現実。片やあたり前の日常があたり前に送られている私。涙があふれてくる。

今は何もできないけれど、北陸に思いを馳せながら、私の周囲を尊んで暮らそう。心施と紡ぐ。

※他の痛みや苦しみも自らの怒性で承る。